

3R社会

リサイクルとエネルギーのバランス大事

リサイクルするところが環境負荷をかけるという意見もあるが

「リサイクルすることでエネルギー負荷が大きくなるケースはそれほど

多くはないのではないかと
思う。古紙のことがよく
言われるが、機械パルプ
はエネルギーを使うが、
クラフトパルプはエネル
ギー回収が良いので、う
まくバランスを取れば良
い。ただ、当然一〇〇%

リサイクルすれば良い訳
ではないし、〇%で良い
ということもない。どこ
が最適であるかの見極め
が大事で、資源有効利用

以上のエネルギー効率の
ある焼却施設を作ろうと
すると莫大な費用がかか
り、あまり現実的ではな
い。少なくとも私の知る
限りではペットボトルの
リサイクルは元が取れる
し環境に対してもプラス
面が大きい。その他プラ
スチックのように熱利用
しなければならぬよう
ものはそうす
ればいいし、
それぞれの状
況に応じて対
応していくべ
きだ。机上の空論ではな
く、経済を理解したうえ
でリサイクルにも取り組
まなければならぬ」
——発生抑制が進んで
いないが。
「ミクロで見ると容器

包装リサイクル法の推進
により詰め替え容器が進
んだら、ペットの肉薄化
等が進み多少の発生抑制
にはつながったが、一人
当たりでごみ排出量が大き
く減るようなところに
は至っていない。プラス
チックも一般廃棄物五〇
〇万t、産業廃棄物五〇
〇万t弱という排出量は
実上水際ですべて止める

「相手が途上国である
場合が多いだけに難しい
問題だ。途上国では法律
はあったとしても廃棄物
はあったとしても廃棄物
とリサイクルに関するコ
ンプライアンスの体系な
どが確立されていない。
状態の悪いものも海外に
流れてしまっており、事
実上水際ですべて止める

「個別リサイクル法が
できたことなどで、静脈
産業はかなり洗練され、
以前と比べ
れば産廃業
界などは良
くなってきた。
た。むしろ

産業界から廃棄物処理法
の規制を緩和してほしい
という声を良く聞くが、
その前にガバナンスガイ
ドラインにきちんと取り
組むことが必要だ」
——循環型社会を進め
ていく上での課題は。
「一つには残土や汚泥
など大量に処理しなけれ
ばならないものがあり、
国がもう少し業界と連携
して再利用等を進めてい
くべきだ。もう一つは微
量の有害物質の問題で、
トレーサビリティを更
に強化するような制度が
必要だろう。REACH
対応も必要となっている
ので、有害物質の管理を
更に進めていくべきだ。
そして、資源戦略と絡め
て有用な希少金属をいか
に確保していくかだ。有
用なものが必要な形で
海外等へ流れることを防
止するように、フローを
コントロールしていか
なければならぬ」

動脈ガバナンス強化を

「リサイクルしない場
合は捨てて燃やすことに
なる。エネルギー効率が
二〇%以上ある清掃工場
というのは多くないので、
現実には燃やすこと
でエネルギーはほとんど
取れない。また、二〇%

変わっていない。そうし
た点は課題が残されてい
ると言えるだろう」
状態の悪いものの
海外流出は問題
——国際資源循環の問

ことは不可能だ。法制度
を整備するよう働きかけ
たり、日本が中心となっ
て3Rを進めるようなイ
ニシアチブを取り、少し
ずつ技術移転を進めるよ
うな取り組みが必要だろ
うな

うことで制限するしかな
い。ペレットやきれいに
洗浄されたフレークが海
外に流れるのを止めるこ
とはできないだろう。資
源の流れを止めるのでは
なくて、流れてはいけな
く

動脈産業、大企業も含め
た排出側に経済産業省の
廃棄物・リサイクルガバ
ナンスガイドライン等に
対応できないところが多
く存在していることが問
題だ。審議会の場などで

新報社)など。中央環境
審議会廃棄物・リサイク
ル部会、産業構造審議会
廃棄物・リサイクル小委
員会、環境省政策評価委
員会委員などを歴任。

慶応義塾大学教授

細田 衛士氏に聞く(下)

【略歴】一九七七年三
月慶応義塾大学経済学部
卒業、九四年四月同学部
教授、二〇〇一年七月よ
り〇五年九月まで経済学
部長。環境経済学、理論

経済学を専攻。主な著書
に「環境制約と経済の再
生産——古典派経済学的
接近——」(慶応義塾大学
出版会)、「グッツとパッ
ズの経済学」(東洋経済

環境経済学、理論

環境経済学、理論